

国際関係からみる ITER計画とBA

横浜国立大学 梶島洋美

1 ITER・BAをどうとらえるか

1-1 2つの科学技術政策プロトタイプ

テクノ・ナショナリズム

国際的優位性と国益増進を目的とする国家主導型の科学技術開発

テクノ・グローバリズム

国際的連携の現実とグローバル・インタレストの視点から進められる市場主導型の科学技術開発

1-2 科学技術協力の新しいかたち

現代の科学技術政策：

テクノ・ナショナリズムとテクノ・グローバリズムの
両者をあわせもつ

ITERおよびBAの特徴：

- ① テクノ・ナショナリズムと
テクノ・グローバリズムの
両者の性格をもつ
- ② グローバルレベルでの
官民協働体制
- ③ 多様なアクター

ITER・BAを考える地平

- ・グローバルとナショナル
- ・協働
- ・アクターの多様性

1-3 国際協力上の課題

▼多様なアクター

これまでのように一定の人々や組織に物事が集中するのには耐えられない

▼問題の複雑化

視点

- ①非集中化
- ②協働(パートナーシップ)

アクター間関係から
ITER・BAを考察する

課題

グローバルな空間では...

いかに国際的なガバナンスを実現させるのか？

先進国としての責任と外交戦略の一貫としてとらえる必要

ナショナルな空間では...

科学技術開発効率と効果を実現していく一方で、権限権力の公正な配分をいかに行うのか？

財源が限定的な中で科学技術開発政策が他分野や他の組織に広く開放・分配される可能性を持ったシステム作りを行う必要性

2 非集中化とパートナーシップ

2-1 非集中化(Decentralization)

一部の人・組織・国家に権力や権限が集中しないように配分するプロセス

現代日本の状況

- ・脱工業化社会におけるライフスタイルや個人を取り巻く状況の多様化
- ・個人や諸組織が「知る機会」・「決定する機会」の増加

→国(政府)が丸抱えして実施するよりも、国以外のアクターに任せ
た方が適切・効果的・効率的な場面が増えている

非集中化の例:

分権	┌	垂直型分権	ex. EUへ(国際的側面)、 ローカルへ(国内的側面)
		水平型分権	ex. 民間企業へ

2-2 パートナーシップ

- ・国境を越えた問題の増加
- ・諸アクターどうしの様々な交渉の可能性
- ・限られた資源を効率的・公正に使う必要

経済的・社会的
厚生確保へ

複数のアクター
が連携・協力

例としては・・・

▽国内社会では行財政改革の中で官民連携の試み

▽国際社会では、気候変動枠組み条約、世銀炭素基金、国際紛争後の共通基金づくりなど

2-3 技術開発でのアクター間関係

	非集中化	パートナーシップ
国家－民間	民間における技術の蓄積・向上、材料の入手・調達	官民連携を可能とするだけの予算の裏付けと政策・システムの整備
国家－ローカル	活性化の主体・総合窓口としてのローカル	税制やグランドデザインでの連携
国家－国際機構	国際機構レベルでの技術開発・技術革新	国際機構と国家プロジェクトとの整合性
国家－国家	途上国等への成果の適正配分	対等な連携、国家戦略間の相互関係

※ローカル：自治体、市民、市民団体を含む

3 ITER計画・BAにおける状況

3-1 非集中化

国家－民間	△	民間における材料の入手・調達○ 産業界での関連機器の製造技術の蓄積・向上？
国家－ローカル	△	カダラッシュや六ヶ所村での研究機関の集積○ イニシアティブをとれるローカルとしての戦略性×
国家－国際機構	○	ITER設立と、そこでの事業の展開
国家－国家	△	ITER工学設計活動に参加しなかった国々への開放の方法についての検討× ITER参加国に広く開放○

3-2 パートナーシップ

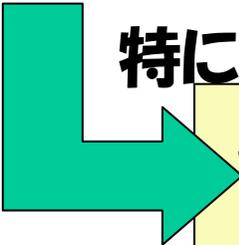
国家－民間	△	産学連携体制○ 国家予算への依存体制や産業界の参加体制のシステム化×
国家－ローカル	△	土地利用計画等の基本的将来構想や政策課題の連携△
国家－国際機構	△	エネルギー分野推進戦略との整合性○ ホストであるEUと非ホストの日本との連携の可能性と限界の整理×
国家－国家	△	共同研究、研究成果の共同利用○ 途上国－先進国間の連携方法の考察△

4 国際協力にむけて

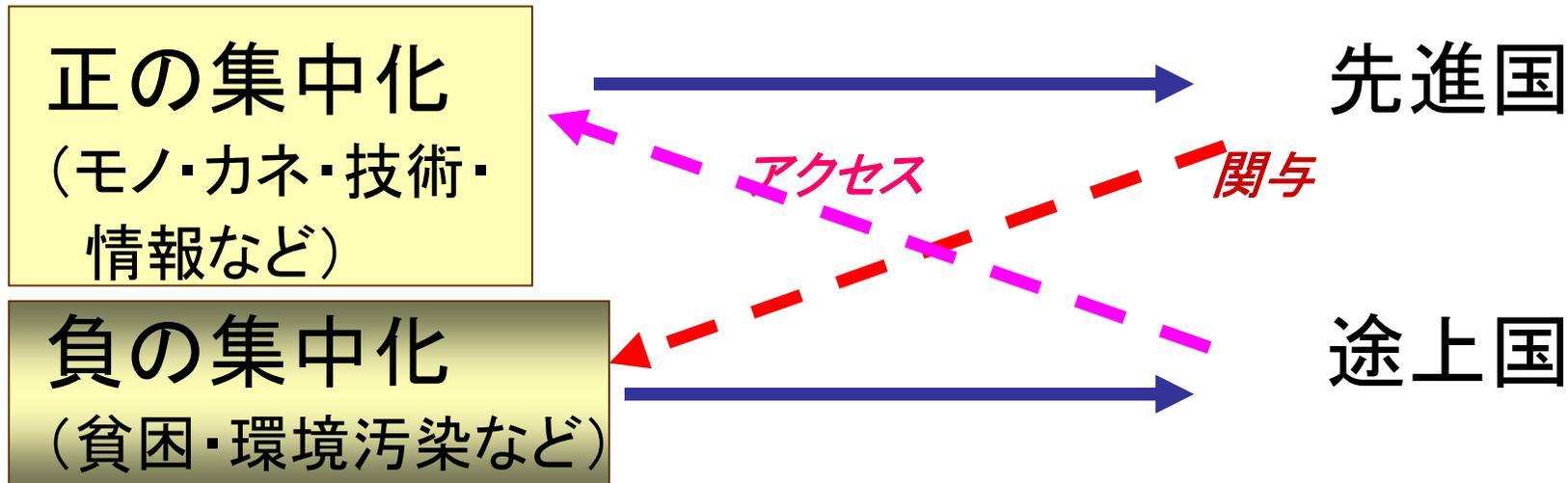
4-1 まとめ

国際関係及び外交上の戦略として非集中化とパートナーシップの視点で見ると、ITER計画とBAについては検討課題が山積

特に…

- 
- ・民間を重視しつつも位置づけが弱い
 - ・イニシアティブをとれるローカルへむけた取り組み
 - ・非ホスト国として関与することの可能性と限界の構造的・時間的整理
 - ・途上国との関係

4-2 南北問題と集中化



* 実線は現状、破線は今後求められる展開を示す

Cf. EUの研究・技術開発枠組み計画

第6次プログラム (FP6:2002~2006) の特徴: 国際的な研究協力

→ 革新的アイデアのひろがり、共通の技術企画・基準 (= 通商上の基盤構築へ)

→ 単に道義性の問題だけではない

4-3 アジアとの連携

